

第 1 回 高 校 生 東 南 ア ジ ア 小 論 文 コ ン テ
ス ト

優 秀 賞

横 須 賀 学 院 高 等 学 校 3 年

青 木 仁 奈 さ ん

「ベトナムらしい。」とこの写真を見て感じた。しかし、この中にはたくさんの問題点が隠れていないか。1車線に埋め尽くす二輪車の群れ、3・4人乗りのバイク、おまけにヘルメットをかぶっていない子どももいる。日本では考えられない光景であり、危険だと思う。私は、この状況を改善するために、交通安全についてよく学ぶことが必要だと考えた。

私は、小学生の時に学校で交通安全の授業を受けた。外から講師を招いて、年に1回ほど行う。ここでは信号の正しい渡り方や、自転車の乗り方などを学んだ。おかげで今は安全に交通ルールを守り、事故にも遭わずに暮らせている。

しかし、ベトナムの交通ルールについて調べてみると、法律で定められているルールとは別に、暗黙の了解のようなものも存在するという。例えば、「前にいる車を優先する」や「自分を主張するためにクラクションを鳴らす」など。さらには、無免許運転をする人も

少なくはないという。根付いてしまったルールを、今さら強制的に変えるのは難しいだろう。そこで私は日本のように、小学校で交通安全教室を行うべきだと考えた。小学生の時点、正規のルールを学んでおけば、大人になった時に安全に運転できるのではないか。また学校で子どもに教えることで、親たちも改めて自分たちの運転を見直すかもしれない。

2007年にベトナムで二輪車のヘルメット着用が義務化された。そこで問題なのが、安全性の低いヘルメットが普及していることだ。転倒時に商品のプラスチックが割れ、頭に突き刺さる事例もある。安価ということでは若者をはじめ、多くの人を買ってしまうという。また、2015年には6歳以上の子どもにもヘルメット着用の義務が課せられたが、中には、ヘルメットが子どもの頭蓋骨に支障をもたらすのではないかと思って使わせない親もいるという。こうした人たちのためにも、安全な商品を紹介し、正しく使ってもらえる

ように紹介する場が必要ではないだろうか。

したがって、私はベトナムの小学生をはじめとした人々に交通ルールの大切さを知ってほしいと思った。実際に2016年には、ハノイの小学校でベトナムの公安省交通警察局と教育訓練省・毎日新聞の協力により、日本式の交通安全プログラムを実施し、ゲストでドラえもんも登場した。このような活動を続けていくことで、徐々に安全な方向へ向かって行けると思う。また、ベトナムでのバイクの販売シェア（2010）では約84%がホンダ・ヤマハ・スズキといった日系企業が占めている。これは日本にとってとても嬉しいことである。バイクという商品だけではなく、今度は安全性を輸出できるのではないだろうか。「ベトナムらしい」バイクの光景を残しつつ、もっと安全な生活ができるようになったら素敵だ。